令和8年4月6日（月）通巻1962号　昭和47年12月11日第3種郵便物認可 毎週月曜日発行（第５月曜日休刊）

2026年 4月6日 No.1832

週刊 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION　http://www.kyoiku-shiryo.co.jp

潮流 住まいを自分ごとで考える機会に

株式会社CHINTAI プランニングディビジョン部長　宮越大樹 ㊦

資料

①総合における評価について

――生活、総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ

②令和７年度「教師不足」に関する実態調査

――文部科学省

CONTENTS

▶ 2 潮流
住まいを自分ごとで考える機会に
宮越大樹（株式会社CHINTAI プランニングディビジョン部長）㊦

▶ 5 解説・ニュースの焦点
〇学習資料「一家に１枚　地球」を公開
〇人権侵犯事件、「教育関係」が最多
編集部

▶ 8 特集
高等学校教育の振興に関する懇談会
編集部

▶14 校長講話
「良いこと貯金」で育てる自律の力
藤木美智代（千葉県・船橋市立大穴小学校 前校長）

▶16 実践！ 校長塾
コミュニティ・スクールを機能させる学校づくり①
梅津健志（千葉県・柏市立富勢小学校 校長）

▶19 資料
①総合における評価について
生活、総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ
②令和７年度「教師不足」に関する実態調査
文部科学省

▶35 教育問題法律相談
スマートフォンに保存された画像の削除
加藤昌子（弁護士）

▶36 学習指導要領のイデアを実践する
教育課程企画特別部会の
配布資料にも注目したい
玉置 崇（岐阜聖徳学園大学 客員教授）

▶38 私たち、子どもの全力サポーター！
大人がお手本!?
立崎愛枝（公認心理師）

▶40 地方議会から〈注目の質問ダイジェスト〉
高校改革②
編集部

▶42 変わる教育委員会
不登校児童生徒の声をカタチにする①
子どもを主語にする草潤中学校の挑戦
水川和彦（岐阜市教育委員会 教育長）

▶44 現場仕込みのメンタルケア論
教育における「再現可能性」の限界
川上康則（東京都・杉並区立済美養護学校 主任教諭）

▶46 新連載　再考！学校安全
学校安全の射程
――信頼される学校づくりの前提として
小田隆史（東京大学大学院情報学環 准教授）

▶47 BOOK
『正しい思考法
芯をもって生きるための教師の信念100』松尾英明
『未来を照らすコトバ
ビジネスと人生、さらには社会を変える51のキーワード』
山口 周、長濱ねる

▶48 自著を語る
『「ひと」と出会う教室』
ドイツ教職メガネ（ドイツ在住教員）

▶51 データで見る教育
学習指導要領の構造に関する現状と課題 ほか

▶52 マイオピニオン
学生による授業評価について
福田大治（弦楽器演奏家、ラテンアメリカ研究者）

▶別冊・教育小辞典　下巻
リーダーのための最新教育キーワード（令和８年）
初等中等教育、スポーツ、調査・統計

潮流

株式会社CHINTAI
プランニングディビジョン部長
宮越大樹（みやこしだいき）さんに聞く㊦

2013年に株式会社CHINTAI入社。営業職を経て学生支援施策を担当。進学や就職で一人暮らしを始める高校生向け副教材の制作を推進し、全国1491校・累計21.7万人に提供。学生の新生活を支援するサービス「ガクサポ」の立ち上げにも携わる。

住まいを自分ごとで考える機会に

賃貸における防災など住まいに関わる安全面のほか高校生が住まいについて自分ごととして考える機会になるように先生方の意見を踏まえ、より実践的で活用しやすい副教材をリニューアルした。

防犯・防災や「原状回復」も

――副教材に「一人暮らしの防災準備ワーク」などを追加したとのことですが、どういう内容ですか。

宮越　今年2月に改訂した副教材では、現場の先生方から寄せられた授業実施上の課題や高校生のニーズを踏まえて、一人暮らしにおけるトラブルを未然に防ぎ、安心して新生活をスタートできるよう、内容を拡充しました。防犯・防災対策、全国の1R／1K物件の平均家賃相場・地域差の理解、「原状回復」費用トラブルと防止ポイントをテーマに加え、ゲームやシミュレーション形式で学べる体験型ワークを導入しています。

例えば、防災対策では、ハザードマップの基礎知識や、家具配置の工夫を考えるなど、実生活に直結する知識を分かりやすく紹介しています。指導をされる先生方向けに「指導案ガイド」も提供しており、「一人暮らしの防災準備ワーク」では、地域のハザードマップの見方や地震が発生したときの家具配置の危険性をイメージできるようにしています（画像）。

今回の改訂では、住生活教育の専門家である萬羽（ばんば）郁子先生に監修・協力してもらいなが

ら作成し、家庭科住生活分野における教育学的視点と、私たちが有する住まい選びや契約に関する実社会の知見とを掛け合わせて、授業の流れや発問の仕方、話し合いや振り返りのポイントを整理しています。限られた時間内で先生方にはすぐに活用していただき、生徒が住まいについて自分ごととして考える、主体的な学びにつながるように工夫しました。

――今回、副教材に「原状回復」の問題なども追加されました。

宮越　「原状回復」とは、賃貸物件の退去時に、入居者が故意・過失で汚損した箇所を修復し、部屋を入居時の状態に戻す義務のことです。経年劣化や生活で生じる自然な傷・汚れは対象外で、費用は主に敷金から充当されるが、退去時に精算されます。最近は、敷金なしの物件もありますが、退去時の「原状回復」のために、費用が請求されますので、そうした知識も伝えるようにしました。

――この副教材を活用した高校現場から、どのような反応がありましたか。

宮越　生徒からは、「間取り図の見方がとても参考になった」「契約の流れや初期費用の計算を体験して、楽しみにしていた一人暮らしに責任感を感じた」「複数の物件情報から自分の条件に合った物件を選ぶワークが特に役立った」などの声がありました。

実際に授業で活用した先生からは、「業界発信の正確な情報が掲載されているため、生徒も教師も安心して活用できた」「教科書や資料集だと堅苦しくなりがちだが、このガイドブックは必要事項が網羅されており、大変助かった」「イラストや事例が豊富で理解しやすく、生徒の関心も高かった」などの声をいただきました。

現場の先生向けに勉強会も

――賃貸物件の情報を扱う会社として、こうした副教材の活用への期待は。

宮越　今回の副教材は、学校での授業で活用していただくのはもちろんですが、保護者の方も含めて、「一人暮らし」について、親子で話し合うきっかけの一つになればと願っています。例えば、大学進学に向けて受験の準備をしているときは、進学後の生活について考える余裕はなかなかないと思います。今回の副教材も、高校現場では1、2学年の家庭科などで、3学年では進路指導などの際に活用していただくケースが多いようです。

――今回の副教材を有効に活用していただくために、教育委員会などとも連携されていると聞きました。

宮越　私たちとしては、高校の家庭科などで授業に活用していただける副教材を提供していますが、単に「情報を届けて終わり」にならないように、教育委員会の関係者とも連携しながら、現場の先生方向けの勉強会や研修会などでも協力をさせていただいています。例えば、研修会などでは、今回の副教材の使い方だけでなく、賃貸物件の契約やトラブルの現状なども含めて、情報を提供させていただいています。こうした取り組みも少しずつ、広がってきましたので、今後も、連携をしていければと考えています。

――現場の先生方が参加する研究会などとの連携もされているのですか。

宮越　そうですね。現場の先生方に副教材の内容について説明させていただいたり、実

際に活用している先生方から、授業での生徒の反応や、教材への要望などを直接、お聞きしたりしています。公立の学校と私立の学校など、研究会もいろいろありますが、現場の先生方同士が、少しでも情報を共有して、授業に生かしたいという熱意が感じられます。ですから、私たちとしても、こうした副教材を単に知っていただくだけでなく、現場で困っていることをお聞きしたり、賃貸物件の契約の現状や傾向なども含めて、情報提供させていただいたりと、現場の先生方と情報を交換する機会を大切にしていきたいと考えています。

環境教育の視点で連携を模索

――今後、会社として教育分野での社会貢献でお考えになっていることは。

宮越　部屋選びなどの暮らしに関わることは、社会の在り方にもつながっていくものだと考えています。この観点から、環境教育という視点で私たちにできることがあるのではないかと思っています。家庭科などの学習でも、環境の視点や、持続可能な社会、ＳＤＧｓと関わる内容がありますが、引っ越しも、こうした視点から考え直す必要があるのではないでしょうか。

例えば、引っ越しを繰り返していくと、不要と考えられるものをどんどん捨てていくということになります。しかし、社会全体の環境保全という視点から見ると、不要なものを捨てるだけでなく、リユースして社会に還元していく仕組みも必要です。

――具体的には、どのような事業モデルを検討しているのですか。

宮越　私たちとしては、他分野の企業と提携して、環境への負荷がなるべく低くなるような引っ越しの在り方を検討しているところです。例えば、提携を検討している会社は、引っ越しに伴う不要物や、ごみなどを全て一括して引き受けて、不要物やごみの分別は、引っ越しの当事者ではなく、その会社が請け負って、リユースができるものがあれば、それを必要とするところに届けます。

私たちとしては、こうした事業モデルでの経験を通して、引っ越しや暮らしの身近な問題を、社会全体や環境保全などの視点から、生徒さんなどに考えてもらうなど、教育の視点から、さまざまな情報を提供できるのではと思っています。それを通して、生徒さんが自分にできることを考える機会になればと考えています。

――今回の副教材の提供を通して、学校現場にアピールしたいことは。

宮越　今回の副教材の提供で目指していることは、高校生など若い世代の最初の部屋探しを、どう豊かにできるかという点です。その意味では、住まいに関わる契約やさまざまな準備、実際の部屋選びを自分で考える機会を、私たちが得意な賃貸に関わるさまざまな情報を提供しながら、学校などの教育現場で活用していただければと願っています。

私たちは、「気づく、であう、広がる。自分らしい暮らしが叶う社会を創る。」という企業理念の下、新しい街や価値観との出会いを通じて暮らしの可能性を広げ、自分らしい暮らしが実現する社会に向けて、一人一人に寄り添いながら、そのきっかけを生み出し続けたいと考えています。

今回、リニューアルした高校家庭科の「住教育」に関する副読本は、学校現場には無償で提供していますので、ぜひ、活用していただきたいと思います。

株式会社ＣＨＩＮＴＡＩ＝https://www.chintai.jp/